

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**兵庫県 神戸市立玉津中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間（50分）



2時限目  
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

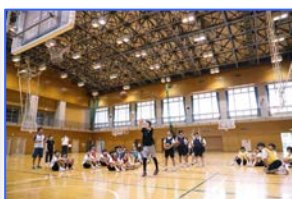
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実 施 内 容

- 期 日 : 2020年2月4日 (火) 5日 (水)
- ク ラ ス : 2年5組 (39名)、2年6組 (39名)、2年7組 (37名)
- オリンピアン : 鹿島 瞳 先生 (水泳/競泳)【出場オリンピック/アトランタ大会】

## ■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限、1時限)

### 1. 自己紹介~授業の目的確認



- ・運動と座学の時間を通して、オリンピズムやオリンピックバリューについて伝えたいと授業の目的を確認し、運動の時間は「全力で」「クラス皆で協力し」「お互いを尊重して」取り組むことを目標として伝える。
- ・準備体操として、ストレッチ、人間知恵の輪を実施。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



- ・8の字跳びを全2回実施。60秒間に跳べた合計回数を数え、各回終了後に回数を伸ばすための作戦を話し合う。
- ・クラス全員で全員跳びに挑戦。

### 4. まとめ



- ・授業の冒頭で話したオリンピックバリューを意識しながら取り組めたかを確認し、次の座学の時間ではオリンピックバリューについて鹿島先生の経験を踏まえて詳しく話したいと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限、2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックの歴史やシンボルの意味、クーベルタンについて紹介。
- ・鹿島先生が感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、フェアプレー」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：学年末テストでクラスの平均点をあげるためにどのようなことに取り組んでいけば良いか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「授業をしっかり聞く」「毎日2時間以上勉強する」「分からないことを質問する」「時間を有効に使う」(エクセレンス)  
 「分からない所を友達と教えあう」「教室を勉強しやすい空間にする」「友達を競う」「問題を出し合う」(フレンドシップ)  
 「授業中の態度を変える」「先生を尊敬し、感謝の気持ちを伝える」「カンニングをしない」(リスペクト)

4. まとめ



- ・夢や目標に向かう中でベストを尽くせなくなることもあるが、友人や両親等、周りのサポートに感謝することで、また上を目指して頑張ることができる。オリンピックバリューを意識して、夢や目標の実現に向けて歩いてほしいと伝え、授業終了。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2020年2月 5日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (37名)、2年4組 (38名)

■オリンピアン : 田端 健児 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アトランタ大会、シドニー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・今日はオリンピックバレーについて学ぼうと授業の目的を確認。
- ・準備体操として、ストレッチと片足ムカデ競争を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・速く走るための練習として、ピッチを速くするトレーニングとストライドを広げるトレーニングを実施し、班対抗でリレーを実施。

## 4. まとめ



- ・次の座学の時間では、オリンピックバレーについて詳しく一緒に学んでいこうと予告し、授業終了。





■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・田端先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る、ベストを尽くす、全力で取り組む」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意/尊重、思いやり、ルールを守る、感謝」と説明。
- ・シドニー大会の映像を見せながら当時の様子や心境を伝える。

3. グループワーク



- 発問：各班で1つ「目標」を決め、目標に向かってどんな行動をすれば良いか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：・テストの平均点を上げるため/エクセレンス：「1日2時間以上勉強する」「楽しく勉強する」「家で毎日勉強を一生懸命頑張る」  
 フレンドシップ：「クラスの雰囲気を良くする」リスペクト：「2分前行動の呼びかけ」  
 ・部活動で全国大会に出場するため/エクセレンス：「自主練習をする」「基礎練習を欠かさない」  
 ・“文武両道”のため/エクセレンス：「自分から行動する」/ フレンドシップ：「友達と協力する」「互いに高め合う」  
 ・モーニングテスト合格率100%を達成するため/エクセレンス：「練習プリントの枚数を増やす」「クラス全体で学習する時間をつくる」

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆も日常生活の中で感じられる。オリンピックバリューを意識することで目標を達成するために取るべき行動が明確になるので、オリンピック教室で学んだことを意識して、実際に行動に移せる人になってほしいと伝え、授業終了。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2020年2月6日(木)

■ク ラ ス : 2年2組(39名)、2年3組(39名)

■オリンピアン : 池松 和彦 先生(レスリング)【出場オリンピック/アテネ大会、北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間(3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・オリンピックに出場した経験から感じたこと、身に付いたことを皆に伝えたいと授業の目的を確認し、座学の時間ではオリンピックバリューについて学ぼうと伝える。
- ・準備体操として、ストレッチ、ペアストレッチを実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。90秒間に跳べた合計回数を数え、各回終了後に回数を伸ばすための作戦を話し合う。
- ・クラス全員で全員跳びに挑戦。

## 4. まとめ



- ・運動の時間で感じたことがオリンピックバリューにどう繋がるかを次の座学の時間で考えていこうと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックバリューについて考えよう授業の目的を確認。レスリングの映像を見せながら競技紹介し、クーベルタンやオリンピックシンボルについて説明。
- ・池松先生が感じたオリンピックバリューについて「リスペクト＝敬意/尊重、フェアプレー、感謝、ルールを守る」、「エクセレンス＝卓越、努力する、ベストを尽くす、全力で取り組む」、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、チームワーク、協力」と説明。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間に体験したことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「目標を立てる」「全力を尽くす」「他のクラスを越えられるように努力した」「引っかけなくても諦めない」(エクセレンス)  
 「ミスしてもフォロー」「皆で声を出す」「思いやりの気持ちを持つ」(フレンドシップ)  
 「縄を回してくれた人に感謝」「皆で楽しむ」「ルールを守った」「握手をする」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピック教室で学んだこと、経験したことを今後の学校生活に活かしてほしい。これから夢に向けて挑戦する中で、協力してくれる人がたくさん現れるので、自分を磨き、周りに感謝をしながら活躍の場を広げてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



2年4組



■ 集合写真  
2年5組



2年6組



■ 集合写真  
2年7組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



2年6組



2年7組



■ 修了証贈呈

